

マーガレットから生まれた県育成の あたらしい花「ビジューマム」 シリーズとニューサマーステラ

1. はじめに

花きの消費は嗜好性が強く、バラエティに富んだ新品種を絶えず導入・生産、販売していくことが市場から産地に求められています。

伊豆農業研究センターでは、伊豆特産花きであるマーガレット品種の育成に取り組み、これまでに53品種を育成し、産地に導入されてきました。2025年現在では鉢物用18品種と切り花用1品種が生産者団体と栽培許諾契約を締結されており、生産販売されています。

今回はこれらの中から、マーガレットとキク科の近縁種との交配により育成された属間雑種「ビジューマム」シリーズとニューサマーステラについて紹介します。

2. 属間雑種の作出

マーガレットは地中海沿岸の温暖な気候の地域が原産で11月から翌年の5月頃まで開花しますが、日本の

冬の寒さや夏の高温下では生育が停滞し、枯れてしまうこともあります。県内の鉢物生産者からは、近年の燃油の高騰によるコスト高を軽減できる品種の育成、夏季に出荷できる品種の育成が強く望まれていました。これらに対応するため、他のキク科植物を交配親とし得られた胚を未熟な状態で培養することで、世界で初めてマーガレット×ローダンセマムの雑種（ビジューマムシリーズ）とマーガレット×ローマンカモミールの雑種（ニューサマーステラ）を育成しました。

3. ビジューマムシリーズ

これまでのマーガレットにはない鮮やかな花色が特徴で、フランス語で宝石を意味する「ビジュ」と、キク科の愛称「マム」を組合せた「ビジューマム」と命名し、品種登録を出願し現在までに7品種が品種登録公表されています（図1）。これらは1月から6月頃まで開花し、コンパ



図1 静岡県育成のビジューマムシリーズ一覧



図2 花壇に植栽されたビジューマム

このことから、ビジューマムの耐寒性はマーガレットより強いことが明らかになるとともに、県内の暖地では無加温で生産可能だと判断されました。冬季の鉢物マーガレットは10℃程度に加温しての栽培が一般的ですが、県内の暖地であれば無加温温室でも栽培が可能なビジューマムは、生産コストの低減に有効だと評価され、導入する生産者が増加しています。

4. ニューサマーステラ

マーガレットに夏季に開花する特性を付与するために、近縁のキク科



図4 'ニューサマーステラ' の開花株

植物であるローマンカモミールとの雑種作出に取り組みました。2018年から交配を開始し、多くの雑種個体を得、これらの中から夏季開花性の有無、草姿や開花数、現地適応性調査を経て1個体を選抜、ニューサマーステラとして2023年に種苗登録申請し、2024年度から本格的に生産販売が始まりました（図4）。

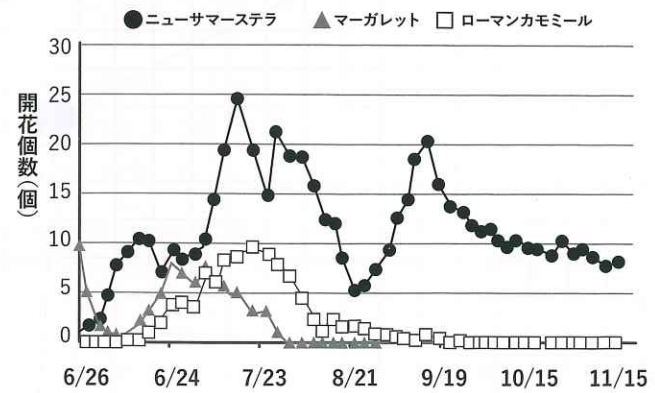


図5 属間雑種「ニューサマーステラ」と両親の開花数の推移

5. おわりに

伊豆農業研究センターでは、今後多様化する産地の課題や市場ニーズに合わせ、多様なマーガレット類の品種展開を通じて、県内花き産地の振興を図りたいと考えています。

お問い合わせ先

静岡県賀茂郡東伊豆町稲取3012
静岡県農林技術研究所
伊豆農業研究センター
生育・加工技術科
Mail: agriizu@pref.shizuoka.lg.jp
TEL: 0557-051234



図3 属間雑種ビジューマムと両親の低温遭遇後の様子
(左: マーガレット、中: ビジューマム、右: ローダンセマム)